

## 事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年 3月 29日

事業所名 社会福祉法人至泉会 すこやか園 児童発達支援事業

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
環 境 ・ 体 制 整 備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・お子さんの状態像や経験できるとよいことに合わせて、遊具の部屋を設定するなど工夫している。	
	②	職員の配置数は適切である	○		・子どもたちの様子や活動内容に合わせて配置数を考えている。 ・基準以上の配置をしている（加配配置）。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・手順表やスケジュール表、見本等、見て分かるように伝えている。また、伝え方もグループやお子さん一人ひとりにとって分かりやすさを考えて、工夫をしている。 ・自由遊びは玩具ごとに遊ぶ場所をマットで示すなど、分かりやすく環境を設定している。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・療育後は玩具、机、ロッカー等、子どもたちが触れたものは毎回消毒を徹底し、行っている。 ・毎日の清掃に加えて、月に2回程、トイレや水回りの清掃を行っている。 ・遊具の種類によっては別の部屋に置いている。	
業 務	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・毎日実施している朝の打ち合わせ、振り返りの時間の中で行っている。 療育課会議を月に1回実施している。	

改善	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		・年に2回行われる運営委員会の中で、状況報告をして意見をいただいている。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・日々の振り返りの中で、お互いに学び合えるように意識している。専門職がいることで、よりその機会になっている。 ・職員が行った研修の報告をすることで共有を図っている。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・療育支援方針会議を行い、支援の方向性を園内で検討、共有し、作成している。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・年長は就学に向けて発達検査、知能検査を実施し、状態像を把握する一つの判断材料としている。また、必要に応じて遠城寺式・乳幼児発達検査表を使って、保護者と本人の状態像を共有している。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・それぞれのお子さんの支援計画に沿って、活動内容を設定している。その結果、どうだったのか、振り返りの中で共有し、記録している。

	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・毎日グループごとに月の予定を作成し、そのグループに合った活動内容やねらいを立てている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・2週同じ活動内容を行っているが、指示の出し方、教材を変える等、お子さんの様子に合わせて展開させている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	○		・グループ療育の中で、個別支援を実施し、その後の振り返りを行い、情報を共有する中で、支援計画の内容に取り入れている。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・毎日実施している。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・療育終了後、毎回振り返りを実施している。次に活かされた方が良い内容は、次の療育の日記に記入し、共有している。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・個別支援計画に基づいて振り返りを行ない、毎回、記録をしている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係 機 関 や 保 護 者	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		・医療機関からの情報提供をグループ職員で共有している。	

との連携関係機関や	②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		・ 情報提供書を確認している。	
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・ 移行支援としては行っていないが、保育所等訪問支援事業と連携している(年2回程度、幼稚園、保育園へ訪問し、お子さんの様子等の情報を共有し、連携している)。	
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・ 移行支援としては行っていないが、年長で就学相談を申し込んでいる人は、教育センターへの情報提供をしている。	
保護者との連携	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		・ 利用児のほとんどが保育園、こども園、幼稚園、プレ保育を利用し、併用している状況があるため、特に保育所や認定こども園、幼稚園などとの交流は設けていない。
	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・ 保護者向け講演会や懇談会を実施したり、個別支援(年少から年長)を保護者同伴で実施することで、お子さんへの理解に繋げている。	

保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	⑳	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	㉑	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	㉒	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・年に数回設けている面談時に保護者からの悩みを聞いている。また、保護者から相談があった際は、必要に応じて面談を行い、その中で話を聞いている。	
	㉓	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・年度初めにオリエンテーションを実施、そこで保護者が顔を合わせる機会を設けている。 ・グループによって、懇談会を実施した。	
	㉔	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・年に数回、面談を実施している。 ・保護者の相談内容に合わせて面談を調整したり、電話で話を聴くなど、必要に応じて対応している。	
	㉕	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・毎月、月のよていを配布している。	
	㉖	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・個人情報管理マニュアルに基づき、対応している。	
	㉗	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	㉘	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・年1回のふれあい福祉まつりを通して、地域の方々に施設を知ってもらう機会にしている。	

非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・マニュアルは策定している。実施していない訓練はある。	
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・年1回、避難訓練を実施している。 ・月の予定に記載したり、玄関前のボードや送迎バスに掲示周知している。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・ヒヤリハットがあった場合は、次にどのようにしたら良いか話し合い、次に活かせるようにしている。 ・振り返りの時間でヒヤリハットの内容を確認し書面に残している。 ・件数や内容を取りまとめて整理し、分析した結果を活かしている。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・療育課会議を利用して（伝達）研修の機会を設けてる。 ・虐待防止委員会を月に1回実施している。	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・身体拘束等行動制限に関するマニュアルに基づいて対応している。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

